

採卵鶏農場で発生したヒストモナスとコクシジウムの混合感染事例

島根県家畜病性鑑定室 ○原^{はら}陽子、東^{ひがし}智子、原^{はら}正三

1. はじめに

ヒストモナス症は、*Histomonas meleagridis* (*H. meleagridis*) の感染によっておこる疾病であり、*H. meleagridis* に感染した鶏盲腸虫の虫卵を直接またはシマミミズを介して間接的に鶏が摂取することで感染する。また、コクシジウム症は、*Eimeria* 属原虫の感染によっておこる疾病であり、オーシストの経口摂取によって感染する。今回、県内一採卵鶏農場の平飼い鶏群において、ヒストモナスとコクシジウムの混合感染事例が発生したので概要を報告する。

2. 経過

一採卵鶏農場において、平成 27 年 9 月末、10 日前に 38 日齢で導入した中雛に衰弱鶏を散見。うち 2 羽について病性鑑定実施（事例 1、①-②）。同年 10 月初旬、同鶏群において衰弱鶏が微増し、斃死鶏が 1 羽発生したため、本斃死鶏を含む 5 羽について病性鑑定実施（事例 2、健康鶏③，衰弱鶏④-⑥，斃死鶏⑦）。当該農場は、同年 10 月末に 38 日齢で新規鶏群を入雛。新規鶏群には事例 1 および 2 を受け、対策を実施。12 月上旬に経過観察のため、新規入雛鶏群の衰弱鶏 3 羽について病性鑑定実施（事例 3、⑧-⑩）。

3. 材料および方法

全例について、病理解剖、病理組織学的検査（HE 染色および PAS 反応）を実施。事例 2 の⑦を除く全例について、寄生虫検査（腸内容の鶏コクシジウムオーシストの直接鏡検および OPG 測定）を実施。

4. 成績

事例 1 では、①および②の盲腸に多数のヒストモナス原虫がみられ、これに伴う壊死性腸炎がみられた。寄生虫検査は陰性。事例 2 では、③および④にヒストモナス原虫の感染を伴う盲腸炎がみられ、③の肝臓にヒストモナス原虫を伴う巣状から塊状壊死がみられた。加えて、全例（③-⑦）にコクシジウム性腸炎がみられ、寄生虫検査において④-⑥からコクシジウムオーシストを検出。事例 3 では、⑧にヒストモナス原虫の感染を伴う出血性化膿性盲腸炎、⑨および⑩に偽膜性盲腸炎がみられ、⑨の小腸には鶏回虫の寄生がみられた。また、寄生虫検査において⑧および⑨からコクシジウムオーシストを検出。

5. 考察

以上より、ヒストモナスとコクシジウムの混合感染事例と診断。本鶏群は平飼い鶏舎で飼養されており、ヒストモナスおよびコクシジウムの感染リスクが高い状況にあったと考えられた。また、移動や飼育環境の変化等がストレスとなり、

本事例の発生に関与した可能性が考えられた。当該農場では、各種対策実施後の新規入雛鶏群においてもヒストモナスやコクシジウムの感染鶏がみられており、原虫病対策の難しさがうかがわれた。